



# 全力投球

石部中学校 校報  
湖南省宝来坂四丁目3-1  
TEL:77-3781 FAX:77-6802  
<http://www.edu.konan.jp/ishibe-jh/>

## 明けましておめでとうございます。

新年明けましておめでとうございます。

平成20年(2008年)の幕開けです。昨年は食品の偽装事件が頻発したり、大きな汚職事件があったりとあまり良いニュースが聞けませんでした。どうか、今年は皆が平和で明るく暮らせる年であるよう願っています。

### 生徒の皆さんへ

「1年の計は元旦にあり」と言います。皆さんはこの1年をどのようなことに努力して過ごそうと考えましたか。「授業を一生懸命受けよう。」とか、「県体に出られるよう頑張ろう。」「ができるようになる。」「家での勉強を1日2時間はしよう。」「テレビを1日2時間以上は見ないようにしよう。」「人とケンカをしないようにしよう。」など、どんなことでもよいと思います。自分で何か目標を決めて、コツコツと取り組んでください。大切なことは、「自分の生活や態度を少しでも改善しよう」と心がけ、それに向かって地道に努力することです。

人間は努力することで成長します。是非、目標に向かって着実な取り組みをし、この1年を実りあるものにしていてください。皆さんのがんばりを期待しています。

もし、「1年の計」を立てていない人がいたら、是非この機会に目標を作ってほしいと思います。

毎日コツコツと努力することは、なかなか辛いものです。しかし、その辛さを乗り越える自分なりの「コツ」をつかめば、比較的容易に乗り越えることができます。その参考に、マラソンの君原健二選手のエピソードを紹介します。

君原健二選手は、東京、メキシコ、ミュンヘンと3回連続してオリンピックに出場し、東京は8位、メキシコ2位、ミュンヘンは5位に入賞し、世界のトップランナーとしての輝かしい記録を樹立しました。このほかボストン、アジアマラソン、国内では朝日国際、別府大分毎日マラソン大会など、合わせて13回も優勝しています。フルマラソンを48回走って一度も棄権したことがありません。これまで走った距離は14万キロ、地球4周半とのことです。

君原選手といえば首を横にふり、淡々とした表情でゴールへひた走る姿が印象的ですが、その真摯な姿に世界中の人が感動をしました。決してハデさはなく、いつも、ひたむきで、努力の人でした。

この君原選手は、自分のマラソン人生を振り返って、次のようにおっしゃっています。

「私は小学校では、勉強もスポーツもダメの劣等生で、なにひとつ目立たない子どもでした。それが中学にあがり、誘われて陸上部に入り、走りをはじめてから人生が変わりました。それまでのコンプレックスをバネに小さい向上心が燃えはじめ、真剣に練習に取り組みました。

運動会で1等になったことのない私がオリンピックに3回も出て銀メダルもとりました。人はそれぞれ大きな潜在能力(隠された能力)をもっています。

私は今までのレースで棄権したことは一度もありません。レース中に苦しくなると、目標を小さくして走りました。あと1km走ってみよう。あと100m走ってみよう・・・。最後にはあの電柱まで走ってみようと思ったのです。」(この話は、「メダル獲得よりも身近に目標を立てて完走することが大切である」と呼び掛けた)公共広告機構のCMでも紹介されました。)



君原選手は、何を言いたいのでしょうか。私は、こう思います。

「人生は長い道のりです。うまくいくときもありますが、辛くて投げ出したくなるときもあります。でも、自分の目標をしっかり持ち、自分の足もとをしっかり見つめ、着実に歩いていくことが大切なのです。遠くて長くて険しい道のりも、「あの電柱まで。そしてまた、次の電柱まで。」と小刻みに目標を決めて取り組むことで、大きな目標にたどり着くことができるのです。」

## 保護者の皆さんへ

新しい年が明け、今日から3学期が始まりました。この3学期は今年度の締めくくりであると同時に、来年度からの新しい生活を迎えるための準備期間だと言えます。学校でも、各学年の取り組むべき課題に応じた指導をしていく予定です。3年生は4月からの新しい生活（高校生活等）のスタートができるための取り組みを進めます。2年生は最上級生となるための学習の準備や修学旅行の事前学習等を行います。1年生は中堅学年になるための心構えをもって、来年度に向けての学習等を行います。

各学年により、また各生徒によりそれぞれ課題は異なりますが、ご家庭でもお子さんの取り組みを見守っていただき、温かい言葉がけをしていただけたらと考えています。

先日、本を読んでいて出会った文章です。参考になればと思い掲載いたします。（若干、原文に手を加えているところがあります。ご了承ください。）

### 直球で受ける

内田玲子著「台所哲学」より

子どもが「お母さん」と呼んだら、「はい」と答えるのが直球です。いつもキャッチボールのように、言葉を素直に受けることができれば、子どもは落ち着き、心もゆったりと広がるのです。ところが、その日の気分（忙しくて手が離せないということもありますが）次第で「うるさい」「何の用！」というように、脅すような返事をしたり、ハネついたりしては、子どもの心は縮んでしまいます。これは、変化球です。

毎日の生活を、まず照らしてみてください。例えば、お子さんが学校から元気よく「ただ今・・・」と帰ってきたとき、「お帰り。待ってたよ。」と迎えてあげれば、子どもの心は、愛のキャッチボールに包まれるように晴れ晴れとしたものになるでしょう。それを、いきなり「宿題は？」とドッジボールで脅しをかけてしまうと、子どもの心は縮こまり、オドオドするようになります。

「明日、朝6時に起こして」と頼まれたら、「はい、6時に起こすよ。」と受けてあげれば、子どもの心は安心するでしょう。ところが、「この前も約束した時間に起きなかったね。起きられなかったらどうするの」では、折角の子どもの意欲も消えてしまいます。

子どもは、明日の朝のことを頼んでいるのに、以前の話を持ち出して子どもの気持ちをほじき飛ばすようなドッジボールで返しては、心の成長はないでしょう。

こうした変化球の言葉を聞かされている子どもは、親が毒の言葉を浴びせかけているのと同じです。その結果、何を感じ、何を失っていくと思いますか。生活の原点となるところがズレていることに気がつかなければ、同じ場所をぐるぐる回るだけで、人生を終えてしまうことになりかねません。

このような、「直球で受ける」会話は、夫婦間や祖父母等との会話の中でも大切だと思います。「今日の予定は？」という質問に対して、「分かん。」というぶっきらぼうの返事では、心寂しくなります。相手を敬い、大切にしたい気持ちを家族でも地域でも持ち続けたいと思います。）

## AEDが設置されました。

2004年7月に厚生労働省よりAED（自動体外式除細動器）を一般の方でも使用ができるとの通知が出て、公共施設や駅・企業等でも急速にAEDの設置が進んでいます。湖南省でも昨年7～8月にかけて4中学校すべてに設置していただきました。

AEDとは、心臓がけいれんし血液を流すポンプ機能を失った状態（心室細動）になった心臓に対して、電気ショックを与え、正常なリズムに戻すための医療機器です。AEDはその内部に組み込まれたコンピュータによって、傷病者の心臓のリズムを自動的に調べて、除細動が必要かどうかを決定するとともに、どういう操作（手当）をすべきかを音声メッセージで指示してくれます。除細動を行う必要がある時に限って、除細動を実施するようにとの指示が音声メッセージで出されるしくみになっており、安全性が十分に確保されています。

119番に通報してから、救急車が救命現場に到着するまでの時間は全国平均で6～7分です。救急車が到着するまでの応急処置をどのようにするかについて、昨年夏の職員会議と第2回すこやか（学校保健）委員会で研修を行いました。すこやか委員会の研修では、湖南消防署員の方にもお越しいただき、全教職員で研修を深めました。

